

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

ナシ黒星病の秋期防除対策（技術情報第10号）について（送付）

来春の黒星病の発生を予防するため、防除指導に利用していただくようお知らせします。

記

来春のナシ黒星病の発生予防のため秋期防除を徹底しましょう。

1 調査結果

- 1) 平成27年の黒星病の発生は、平年比やや多で推移した。8月の巡回調査においても、発病葉率1%（平年0.5%）で平年比やや多の発生であった（図1）。
- 2) 福岡管区气象台が9月17日に発表した九州北部地方1か月予報によると、気温は低く、黒星病の発生に適している。

2 防除対策

- 1) 秋期に花芽内部の肥大に伴ってりん片組織が露出するため、本病菌に感染しやすくなる。
- 2) 9月以降葉の裏面に薄いスス状の秋型病斑が形成され、りん片感染の原因となる。感染したりん片や落ち葉は、翌春の第一次伝染源となり、翌春の発生の原因となる。
- 3) りん片への感染を防ぐため、収穫後から落葉期（9月中旬～11月中旬）に2～3回の薬剤防除を行う（防除の詳細は、平成23年5月付け農業研究成果情報No.515を参照する。[http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c\\_id=3&id=1033&sub\\_id=1&flid=42&dan\\_id=1](http://www.pref.kumamoto.jp/common/UploadFileOutput.ashx?c_id=3&id=1033&sub_id=1&flid=42&dan_id=1)）。
- 4) 薬剤は、散布ムラのないよう園地の隅々までていねいに散布する。薬剤がかかりにくい場所は、手散布を行う。
- 5) 発病葉は、剪定して園外で処分する。また、被害落葉は感染したりん片とともに翌春の第一次伝染源となるので、園内の落葉は集めて、地中に埋める等適切に処分する。
- 6) 農薬の散布に当たっては、薬剤耐性菌の発生を防ぐため系統の異なる薬剤のローテーション使用を行う。また、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所  
病虫害研究室 予察指導係（病虫害防除所）  
担当：荒木、加賀山 TEL：096-248-6490

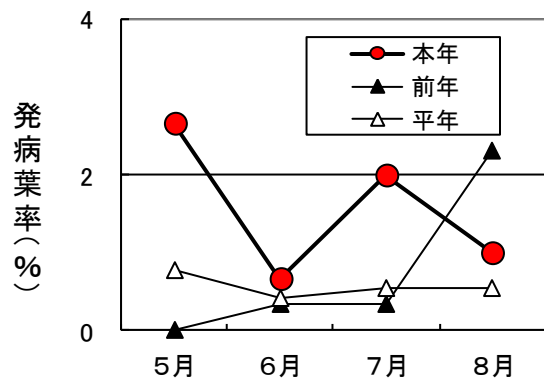


図1 黒星病発病葉率の推移